

■地域名 諏訪市上野地区

■特徴的な被害対策 忌避作物（エゴマ）の実証試験と集落ぐるみの防除対策

1 地域の概要

集落戸数	うち農家	加害鳥獣	被害農作物等	備考

2 実施した被害対策の内容

区分	実施に当たって工夫等したポイント	
これまでの経過	<ul style="list-style-type: none"> ・ 諏訪市有賀峠から辰野町に向かってなだらかに傾斜した県道を中心とし、左右に水田や畑が広がり、すぐ背後に山林が位置する細長い集落。 ・ ここ数年、ニホンジカ被害が増加しており、イノシシによる被害も発生し始めたことから、地域特産の「上野大根」の生産者が中心となって対策の検討を始めた。 ・ 農地には、個々で電気柵やネットが設置してあり、一部山沿いに、防護ネットを設置した箇所もあった。 <p>【H20】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集落で獣害対策の講習会を開催し、ニホンジカやイノシシの生態や防護柵の効果的な設置方法を学び、関係者で被害状況の現地調査と被害状況マップを作成。 ・ 鳥獣害防止総合対策事業により、エキスパンドメタル柵を設置 ・ 農家が狩猟免許（わな）を取得し農地周辺での捕獲に取り組む。 ・ <u>野生鳥獣対策支援チームと協同で、地元特産の上野大根やソバの圃場周囲に、忌避作物のエゴマを栽培する試験を実施し、効果を検証。</u> <p>【H21】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エゴマの品種と昨期を検討するための栽培試験を実施。 ・ エキスパンドメタル柵の点検と侵入原因の検討。 	
被害対策	防除対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防護柵 L=1,000m、エキスパンドメタル製、集落をあげて設置。 ・ エゴマ栽培試験 忌避作物としての効果の検証と、上野地区に適する品種、昨期を検証。
効果	被害状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防護柵の設置後、進入はなくなっていたが、H21 夏にイノシシの侵入があったことから点検を実施し、侵入口を補修。その後の効果は今後の状況による。
	その他特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の農家はエゴマを植えることにより、農地を回避する効果を期待していたが、H21 の効果試験により回避効果は認められなかった（エゴマで周囲を囲んだソバには全面的に食害が発生）。 ・ しかし、エゴマ自体は食害されなかったことから、獣害常襲地帯での栽培作物としての可能性が確認された。 ・ H21 は、エゴマの栽培試験により地域に適する品種と昨期を確認。昨年度に引き続きエゴマ自体には食害はない。
農家の方からのコメント	上野地区の農家に、獣の食害を受けない作物としてエゴマの種子を配付したところ、自家用作物として栽培が普及した。	

3 これからの課題

失敗した事柄	
これからの課題	<ul style="list-style-type: none">・ 防護柵のメンテナンス・ エゴマ生産物の販売方法（搾油販売、現物販売）について検討。

4 問合せ先

諏訪地域野生鳥獣被害対策チーム：諏訪地方事務所農政課（被害集落対応）

電話：0266-57-2913（直通）

[\(関連\) 野生鳥獣に負けない集落づくり事例集（平成20年度版） 諏訪市 上野地区](#)



エゴマ栽培試験（播種）



栽培試験（耕運）



栽培試験（刈り取り）



栽培試験（実の採取）



防護柵の見回り、補修



侵入箇所

平成21年度 エゴマ栽培試験成績書

諏訪市農業技術者連絡協議会

1 目的

諏訪市上野地区におけるエゴマの2品種の特性及び播種適期を把握する。

2 試験場所

諏訪市上野（標高950m）

3 試験委託農家

平林正寛

4 供試品種

- (1) 長野・白（日本エゴマの会）
- (2) 富士見・黒（富士見町在来品種）

5 播種日

標準播：6月15日

晩播：6月26日

6 試験区

標準播	6/15播種	長野・白
標準播	6/15播種	富士見・黒
晩播	6/26播種	長野・白
晩播	6/26播種	富士見・黒

※ 反復無し、1区概ね75㎡

7 耗種概要

- (1) 施肥：無肥料
- (2) 播種日 標準播：6月15日
晩播：6月26日
- (3) 播種密度：畝間90cm × 株間20cm 1穴 3～4粒播種
- (4) 間引き、中耕・培土

	標準播区	晩播区
7月15日	間引き：1穴1本立ち 中耕・培土	
7月31日	間引き：株間40cm 中耕・培土、補植	間引き：1穴1本立ち 中耕・培土
8月12日		間引き：株間40cm 中耕・培土、補植

8 調査結果

(1) 開花期・成熟期

		開花期	成熟期	坪刈り
標準播 6月15日	長野・白	9月14日	11月1日	10月30日
	富士見・黒	9月8日	10月19日	10月19日
晩播 6月26日	長野・白	9月16日	11月5日	11月6日
	富士見・黒	9月9日	10月20日	10月19日

※ 開花期：開花始めになった株が全体の50%に達した日

※ 成熟期：黒化率80%に達した日

(2) 生育調査

(10月19日調査)

		草丈 (cm)	倒伏程度
標準播 6月15日	長野・白	110	無
	富士見・黒	130	中(シカによる踏み荒らし)
晩播 6月26日	長野・白	100	微
	富士見・黒	83	無

(3) 収量調査

		子実重 (kg/10a)
標準播 6月15日	長野・白	78.4
	富士見・黒	88.6
晩播 6月26日	長野・白	59.6
	富士見・黒	39.7

9 考察

- ・ 品種間で標準播において「長野・白」は「富士見・黒」対比で、開花期で6日遅く成熟期で13日遅かった。晩播においては、その差が更に開花期で1日、成熟期では3日拡大した。
- ・ 成熟期直前の草丈は、標準播では「長野・白」は「富士見・黒」対比で約15%短く、晩播では逆に「長野・白」が「富士見・黒」対比で約20%長かった。
- ・ 倒伏の原因はシカによる踏み倒しであったが、いずれの区もシカによる食害は確認されなかった。
- ・ 収量では標準播において「富士見・黒」が「長野・白」を13%上回った。晩播では「長野・白」は標準播より24%減収し、「富士見・黒」は55%減収した。その結果、晩播では「富士見・黒」は「長野・白」より33%低収であった。

昨年に引き続きエゴマはシカに食害されないことが確認できた。

供試した2品種いずれも、晩播すると生育、収量ともに減少し、特に「富士見・黒」の減少程度が甚だしかった。

標準播した場合でも、「長野・白」の熟期では当地においては遅すぎる。また、標準播における収量性は「富士見・黒」が「長野・白」より優った。

以上のことから、当地において品種としては「富士見・黒」を採用し、6月中旬までに播種することが適当であると思われる。